

「カヌー部、ボート部が有名な高校」「先生と生徒の距離が近い高校」「中高連携の交流授業が盛んな高校」「八百津高校の魅力は？」と尋ねれば、きっとこんな言葉が返ってくることでしょう。しかし、最近の八百津高校では、新たな「魅力」がさらに増えてきています。その中からいくつか、みなさんに紹介したいと思います。

**魅力① 「サマー学習ティーチャー！」**

これまでも小学生の土曜学習会などに八百津高校の生徒たちが“ミニ先生”として参加してきましたが、今年は夏休みの小学生の「サマー学習会」でも、お手伝いをさせていただきました。「子どもたちの学力向上のため、積極的に自分で考えて動いてくれたので、助かりました。」と、スタッフの方からお褒めの言葉もいただきました。



**魅力② 「まち会・ワークショップ！」**

八百津町の町おこしを考える「まち会・ワークショップ」に、今年から八百津高校の生徒も本格参加しています。今回のテーマは「八百津町の新たな名物スイーツの開発」です。そのためには…やはり試食です。おいしそうな地元の「お菓子」と「笑顔」がたくさん並んでいますね。10月7日のまち会では、実際に“新名物スイーツ”を作ってみました。12日・13日に行われた町産業文化祭で披露し、大盛況でした。

**魅力③ 「デュアルシステム！」**

もう見かけられた方もいると思いますが、毎週木曜日には15名の八百津高校生たちが地域のお店や企業・施設などで、まるで社員のように入社して実習させていただいています。このデュアルシステムの実習は1年間続く活動です。

社会人としてのマナーを身につけ、コミュニケーション力の向上を目指して頑張る八百津高校生を、これからもよろしくお願ひします。



今後は、小・中・高校生の作品の中から生徒会役員5人が計200首を選び、校内編纂委員会を経て、千畝氏の母校愛知県立瑞陵高等学校と100首を決定する交流会を開催する予定です。年度内の刊行を目指しています。

10月16日には、編さん責任者である中本颯太さん、生徒会長の荒城蛍さんら4名が、杉原千畝記念館を訪問し、千畝氏の人生、ユダヤ人の受難の歴史について学んだ上で、役場会議室で編纂会議に臨みました。会議では大会選者の平井弘氏をお迎えし、短歌大会の経緯や人権と短歌の関わりについての講話を聞くと共に、編さんに当たり「二見人権を扱っていないようでも、そこには人権に対する思いが込められているのではないかと、拡大解釈するような姿勢が大切」とアドバイスを受けました。

杉原千畝氏の功績を称える事業の一つとして、2000年から17回にわたり開催している「杉原千畝記念短歌大会」の作品を題材に、短歌大会参加校でもある愛知県立小牧南高等学校の生徒会役員が、杉原千畝氏の人権・平和精神をよく伝える秀歌100首を選ぶ、「人権百人一首の編纂」に取り組んでいます。

人権百人一首  
編纂会議

愛知県立小牧南高等学校

